

二〇二六年度 三田学園中学校入学試験問題

前期A日程 国語

〈注意〉 各問題の解答はすべて解答用紙に書き入れなさい。

※出題の都合上、漢字にふりがなをふる、漢字をひらがなにするなど、本文の一部に改変を行っています。

※特に指示のない限り、字数制限のある問題では句読点や記号も一字として数えます。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読んで、あとの間に答へなさい。

① 「勉強ができる」ということと、「賢い」ということは、違うことだとわかるだろうか。

君たちが普通、「あの人は勉強ができる」と言う時、たいていそれは「成績がいい」ということだね。試験でいい点をとつて、いい成績をとつていると。

だけど、「賢い」というのは、そういうことじやない。※注サ行下二段活用を言えなくとも、ローマ帝国崩壊の年号を正確に知らなくても、そんなことは全然問題じやない。「賢い」ということは、そういうこととは全然違つことなんだ。

(A)、この場合なら、なぜ言葉というのはそんなふうに活用するものなのか、なぜ活用することで言葉の意味は変わるのか、そういう問い合わせをもつていることだ。問い合わせをもつて、自分で考えていることだ。(B)、なぜローマ帝国は滅ほろんだのか、滅ぶということは人々にとつてどういうことだったのか、そういう問い合わせをもつて、それを自分で考えていることだ。教わったことについて、自分で考えていることだ。君は、授業で教わったことについて、自分で考えたことがありますか。

文法や年号を覚えて、試験でいい点をとることなんか、その意味では簡単だ。自分で考える必要がないからだ。だから、自分で考えずに覚えただけのことなんか、試験が終われば忘れちゃうんだ。それで賢くなっているわけがないじゃないか、だつて忘れちゃうんだから。

自分で考えたこと、自分の頭を使つて自分でしつかり考えたことというのは、決して忘れることがない。その人の血となり肉となり、本当の知識となつて、その人のものになるんだ。人間が賢くなるということは、こういうことだ。言葉はなぜ活用するのかを考えるということは、自分がふだん使つてているこの言葉について考えることだし、ローマ帝国の崩壊と人々について考えることだ。同じ人間としての自分の心や行為について考えることだ。考えるということは、必ず、自分のこととして考えることだ。すべて自分に関係のあることとして考えることだ。なんだ。

君が勉強が面白くないのは、それがなぜ自分に関係があるのかわからないからだつたね。だけど、この世界で自分に関係のないことなんか一つもない。すべて自分に関係のあることなんだと思って、世界を見て、勉強するようにしてごらん。勉強するということの意味と面白さが、わかるようになるはずだ。

国語、数学、理科、社会、英語、どれも勉強することにはそれなりの意味がある。それぞれが、それぞれの仕方で、この世界のことを探求しているものだからだ。そして、世界に【 】はないのだから、「世界を知る」ということは、「自分を知る」ということだ。「自分を知る」ことでこそ、人間は賢くなることができる。暗記するだけの勉強がつまらないのは、それで自分が賢くなつたと実感することができないからだ。

自分で考える勉強は面白い。自分の頭で考えることとは、本当に面白いことなんだ。知るということの喜び、自分が賢くなることの実感、これが人を夢中にする

んだね。

②「知る」ということを、君はこれまで誤解していたはずだ。ローマ帝国の崩壊の年号を知っていることが、「知っている」ということだと。

(C)、本当に「知っている」ということは、そういうことじやなかつた。知っているということは、「そのことはどういうことなのか」ということを、自分で考えて、そして、知っている、理解しているということなんだ。ローマの人々の気持ちはどんなだつたろう、皇帝はどう考えて次にどう行動したろう、そういうことを、自分のこととして想像して、そして納得できているということだ。

もちろんそれが本当にそうかどうか、正しい答えなのかはわからない。いや、正確には「正しい答え」なんてのはないんだ。だつて誰もそれを自分で体験したわけじやないんだから。体験して知っているわけじやないから、想像して考える、ここに考えることの面白さがある。考えるということは、正しい答えを求めるということとは違うんだ。

正しい答えもないのに、どうして考えるのか、考えられるのか、君は疑問に思うだろう。考えるということは、正しい答えを出すことだとも誤解していたはずだからね。

なるほど、ある意味ではそれはその通りだ。答えがなければ、問い合わせはないからだ。だけど、「そのことはどういうことなのか」ということを知るために、どこまでも考えてゆくと、答えというものはないと知る、そういう問い合わせがあることに、人は気がつくことになる。

たとえば、数学や理科の場合には、歴史と違つて、「正しい答え」というのが必ずあるように思えるね。計算すれば、答えは出るし、自然の法則は、そういうことに初めから決まつていてるからだ。

だけど、自然の法則がそういうことに決まつていてるのはどうしてなのか、という問い合わせ立ててみると、君は、この問い合わせには答えがないと気づくだろう。だからこそ人は、考えるんだ。答えがない問い合わせ面白くて、考えるということを始めるんだ。

でも、答えのない問い合わせにはゆかない。先生だって、試験問題に、答えのない問い合わせにはゆかない。「唯一の正しい答え」、それがあるから採点できる。だからローマ帝国崩壊の年号しか、学校では教えることをしないんだ。

こういう理由で、(3) 今の学校の勉強の方法では、学んで知ることの本当の面白さは、なかなかわからない。(D) 君は、学校の勉強は学校の勉強として、自分ひとりで考えることの面白さを追求してゆくのがいいだろう。本を読むのが一番いい手だ。試験問題集なんかいくら数をこなしても、賢くなるのはあんまり期待できないね。

④ 成績を気にせずに、自分の頭で考えよう、とは、あんまり大きな声では言えないな。

まあ、要領だね。本当に大事なことは、試験や受験の先にこそあるということを、忘れないでいましよう。人生にとつて本当に大事なことは何なのかということこそ、自分で考えて知らなければならない問い合わせだ。「知る」ということが、自分が賢くなつて、賢い人生を生きるために知ることでなければ、知るなんてことに、いつたい何の意味があるだろう。

人類には^{※注2} (5) 「学問」という仕事の分野がある。その歴史はとても古くて、ある意味では「有史」ということ自体がその始まりだと言つていい。

人間が動物から分かれて、「知性」つまり「知る、知ろうとする性質」をもつた時から、それはもう始まっていたということだ。人間は、いつも知りたかったんだ。世界とは何か、宇宙とは何か、そこで自分が生きて死ぬとはどういうことなのか。

いつも知りたくて、考えていた。そして文字を発明して、考えを記し、書物を作り、読んでまた考え、やがて科学というものの考え方を見つけるに至った。自分と世界をるために、ただ考えているだけじゃなくて、実験して観察して考える。方法は違うけど、目的は同じだ。自分は、世界はどうなっているのかを知ることだ。人間は、いつもどうしても知りたいんだ。

君がもし、自分で考えることが好きで、知ることを楽しいと感じる人なら、大学へ行つて学問をして、学者になるかもしれないね。それは素晴らしいことだ。人にはそれぞれ得意があるから、実験、観察することが好きなら科学、本を読んで想像することが好きなら文学や歴史、とりあえず大別されではいるけれど、本当は関係ない。根っこは同じ、知りたいという気持ちだ。

学問をするということは、いつも知りたくて考えてきた人間の知性の営み、その長い歴史的営みに参加するということだ。これはずいぶん魅力的なことだと思わないか。科学も文学も、過去のどんな立派な人が残した仕事も、自分と同じように知りたかった人間がしていた仕事だと思うと、何だかいとしくて懐かしいような感じになるはずだ。

今の中学校でのつまらない勉強も、そういう素晴らしい学問の世界の一端いったんだと、そのはじつこの部分に触れているのだと、こう思って、今はこの先に期待しよう。学問の世界は、世界つまり自分そのものとして、本当に奥おくが深いものですよ。

でも、^⑥勉強的なものはやっぱり苦手だ。そういう人もいるだろう。体を動かしたり手先を動かしたり、そういう方がずっと面白い。それはそれで素晴らしいことだ。そういう人はきっと、学問よりもスポーツや芸術に才能があるんだろう。自分の好きな道を行くのが一番いい。でもどの道を行くのでも、それを本当に「知る」ためには、自分で考えて自分のものにすること、それは同じだとわかるよね。

（池田晶子『14歳の君へ　どう考えどう生きるか』より）

注1 サ行下二段活用：中学高校で学習する古文の文法事項。

注2 有史：文字による記録が存在する時代のこと。

問一 空らん（A）～（D）に入る言葉を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号は一度しか使えません。

ア たとえば イ だから ウ あるいは エ でも

問一

——部①「勉強ができる」ということは、違うことだ」とあります、「勉強ができる」ことについての具体的として、次の中から適当なものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 過去の入試問題で高得点をとること。
- イ 空が青いのはなぜかを考えてみること。
- ウ BTB溶液^{ようそくえい}の色の変化の法則^{ほうそく}を記憶^{きおく}すること。
- エ 算数の式を正しく計算すること。
- オ 算数の公式を誰が考えたのか知っていること。
- カ 織田信長がキリスト教を保護した理由を考察すること。

問三

空らん【】に入ることばを本文中から十字でぬき出して答えなさい。

問四

——部②「『知る』ということを、君はこれまで誤解していたはずだ」とあります、どのように「誤解していた」のですか。分かりやすく説明しなさい。

問五

——部③「今の学校の勉強の方法では、学んで知ることの本当の面白さは、なかなかわからない」とありますが、どのように「誤解していた」のですか。それはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 現在の学校の制度では、答えのない問い合わせを考える勉強時間をとることができないから。
- イ 生徒一人一人が答えのない問い合わせを考えていくと、先生自身が答えを理解できず採点できないから。
- ウ 学校の勉強は試験を行わなければならない関係上、唯一の答えがある問い合わせを教えがちだから。
- エ 学校の先生は答えのない問い合わせを考えるよりも、唯一の答えを考えることこそが素晴らしいと考えているから。

問六

――部④「成績を気にせずに、自分の頭で考えよう、とは、あんまり大きな声では言えないな」とありますが、筆者はなぜこのように言うのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 結局のところ試験問題を解く力は何より大事であると考えるから。

イ 人生にとつて大事なことは試験を頑張った後にしか見えてこないから。

ウ 学校の勉強も自分で考えて生きることにつながるから。

エ 賢い人生を生きるために、知識を軽視するわけにはいかないから。

問七

――部⑤「『学問』という仕事の分野がある」とあります、「学問」は何のためのものですか。解答らんに合うように十九字でぬき出しなさい。

問八

――部⑥「勉強的なものはやっぱり苦手だ」という人は、どうすればよいと筆者は述べていますか。説明しなさい。

一、斗羽風汰は中学校の職業体験で「エンジエル保育園」でお手伝いをしている。「林田先生」は風汰の担当者、「しおん君」は保育園の園児である。次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

①園の周りを二周して、風汰は門の外側から中をのぞきこんだ。

保育園になんて行きたくない。休みたい。このまま職場体験を終わりにしたい。しおん君の顔を見たくない。そう思って昨日一日を過ごしたのに……。

午前七時十五分。

つて、なんでおし、こんなに早くに来てんだよ。

キーッ！　とけたたましいブレーキ音を響かせて、門の横にママチャリが止まった。ワンピースにミュールをつっかけた母親が「早く早く」と、後ろのチャイルドシートから男の子を下ろし、前カゴに入っている大きな袋を抱えて中へ入つていった。そのうしろから、やっぱり大きな袋を持つたお母さんが、ベビーカーごと門の中に入つていく。

肩をとんと叩かれて振り返ると、右の頬に指先があたつた。

「ひつかかった！」

ポン先生は指をぴゅんと引っこめてクスクス笑う。

「おはよ。どうしたの？ まだ七時だよ」

「あ、まあ」

風汰があいまいに首をかしげると、ポン先生は「行こ」と、風汰の背中を押して門をくぐった。
「今日で職場体験、終わりだね。^② さみしくなるなあ」

思つてもみなかつたひと言に風汰がぽかんと口を開けると、ポン先生はくすりと笑つた。

七時三十分を過ぎると急に騒がしくなつた。なにをすればいいのかわからず、事務室でうろうろしていると、林田が呼びに來た。

「斗羽君、ホールお願ひるねい」

ホールには昼寝の時間でもないのに布団が出ていた。半分に折つた状態で、布団の端についているマークが見えるように少しづつずらして重ねである。

「なにこれ」

「月曜日はシーツかけとか、着替えの補充ほじゅうがあるから朝は大忙おおいそし。できるだけお母おおいそたちが素早く準備できるように、こうやつて布団を押入れから出しておくんだけどね」と、林田は布団の上を飛びまわる子どもを「向こうであそぼうね」と抱き上げて、崩れた布団を並べ直した。

「シーツはお母おおいそたちがかけるから手伝わなくていいよ。でもすぐ布団が崩れてマークが見えなくなるでしょ、子どもたちも入つてくるから、フォローしてほしいの」

「オッケーっす。布団なわ直したり、子どもを追お払えぱらばいいってことつすね」

「まあそうだね」と林田は苦笑苦笑した。

ホールの中は、「おはようございます」の声が飛び交い、入れ替わり立ち替わり、大きな袋を抱えた親子がやつてくる。子どもたちは布団にシーツをかけている母親のそばでごろごろしたり、持ってきたタオルケットを首に巻きつけたりして、母親に、「やめなさい」「じやましないの」と叱しかられている。それでも子どもたちは母親にまとわりついている。おかしなくらい、どの子もだ。

^④ みんな大好きなんだ、お母おおいそさんのことが。

ホールを駆け回る三歳児さいを捕獲つかふして、ぱんだ組に連れていこうとしていた風汰はその子を床ゆかに下ろして、崩れた布団を重ね直した。

「おはようございます」

林田の声に、今度は誰だれだ、とホールの入口を振り返つた瞬間しゅんかん、^⑤ どくんと心臓が鳴つた。

しおん君。

たたたたたたつ！ しおん君は駆けてくると、くんとあごを上げて風汰を見た。

「おはよお」

「オ、オツス」

風汰が言うと、しおん君はいつものように少しばかんたんに笑い、かばんを下げるまま、並べてある布団のところへ走っていく。そのうしろから、しおん君のお母さんが表情を動かすこともなく入ってきた。

「おかあさーん、しおんのおふとんあつた」

しおん君が重ねてある布団の上にのって、ひまわりマークの布団を引っぱる。

ひまわりは、しおん君のマークだ。

お母さんは表情を変えずにしおん君のところまで行くと、ぴしゃりと足を叩いた。

「あっ」

風汰は思わず声をもらした。

「布団の上にのっていいの？ いけないの？」

しおん君はびくっと硬直して、あわてて布団から下りる。「これ」と、ひまわりマークの布団を指さすしおん君を一度見て、お母さんは周りの布団を整えはじめた。

「どうしていつも余計なことばっかり」

「お母さん大丈夫だいじょうぶですよ」

林田が足早にやってきて、お母さんの隣にしゃがんだ。

「マークが見えていればわかりますから」

「こういうことはきちんとしないと。あの子はなにをやらせてもいい加減なんです。⑥ 面倒なことばかりするんです」

形のいい口元をゆがめるお母さんに、林田はゆっくり息を飲みこむようにして笑った。

「⑦お母さん。しおん君はいい子です。すごくいい子です。大丈夫ですよ」

お母さんは立ち上がり、黙つて布団を広げた。しおん君がかばんからシーツを取り出して、「はい」と手を伸ばす。あごを上げてお母さんを見上げる。笑顔だ。

そんなしおん君から、お母さんは視線をそらして手早くシーツをかけると、なにも言わず、ホールを出ていった。

「おかあさーん、いってらっしゃい」

あとを追いかけて笑顔で手を振っている。そんなしおん君の小さくて薄い肩に、林田がそっと両手をあてた。

風汰は、しおん君と、しおん君のお母さんの背中を見つめた。

（振り返ってくれよ。頼むから。一度、一瞬たのいいから、しおん君に手を振つてやつてよ）

お母さんの姿が廊下の向こうに消える。でもしおん君はじっと、廊下を見つめている。

「こんなの、だめだ。」

風汰は、しおん君の手を握^{にぎ}つて廊下を走った。はだしのまま玄関^{げんかん}から飛び出すと、ヒールを鳴らして歩いていく背中に向かって叫^{さけ}んだ。
「いつてらっしゃーい！ いつてらっしゃーい！ しおん君のお母さん！」

お母さんが立ち止まる。

しおん君が、つないでいる風汰の手をぎゅっと握った。

「おかげあさーん」

しおん君が大きな声で叫んだ。

その瞬間、お母さんはびくっとしたように振り返った。

「おかげあさーん、いつてらっしゃーい」

ぐつと伸び上がり、しおん君は大きく何度も手を振った。

午後のおやつが終わると、園長がきりん組に来た。

「お疲れさま。五日間、どうだった？」

「すげー大変だった」

「あら」と、園長はおかしそうに笑って、それからゆっくりうなずいた。

「子どもたちにちゃんと向き合ってくれて、ありがとう」

べつに、と風汰が意味もなくからだを動かすと、頭の上で結わいた前髪がびょこびょこ^ゆれた。

「みんなすげーって思つた」

「そう」

「うん。すげー」

「そうね、しおん君も」

風汰はこくんとうなずいて、「うそつきだけどね」とつぶやいた。

あいつは、しおん君はうそつきだ。お母さんが好きで、笑った顔が見たくって、愛されたくて、嫌われたくないくて、困らせたくないくて、そばにいてほしくて。

だから、笑ってる。寂^{さび}くとも、悲しくても、好きなあそびができなくても、平気だよって笑っている。

苦しいほど素直で、正直で、うそつきだ。

だけど、ううん、だから⑨そのうそは、誰かがちゃんと見つけてあげなきゃいけない。

「ふーたくーん！」

園庭から子どもたちの声が聞こえる。泥んこの中で、早く早くと手を振っている。風汰は手を振り返して園庭に出た。

(いとうみく『天使のにもつ』より)

注1 ミュール…サンダルのようなはき物。

注2 ヒール…かかとの高いはき物。歩く際にかかとの部分で音が出ることもある。

問一

――部①「園の周りを二周して、風汰は門の外側から中をのぞきこんだ」とありますが、このときの「風汰」の心情について最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 保育園での職業体験がつらく、今日も一日勤めることに抵抗を感じている。

イ 入園可能時間より早く着いたため、どうすれば良いのかわからずに入る。

ウ 本来の時間より早く来てしまった自分に戸惑いながらもしおん君が気になつていて。

エ 正式な職員ではない自分が、母親たちに見つかってはいけないと緊張している。

問二

――部②「さみしくなるなあ」とありますが、これ以外に保育園の先生たちの「風汰」に対する評価がわかる発言を一文でぬき出し、始めの七字を答えなさい。

問三

――部③「苦笑した」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 風汰の遠慮のない言い方に、戸惑いつつも注意するほどではないと思ったから。

イ 理解の早い風汰の返答に、このまま職業体験を続けてほしい気持ちが出てきているから。

ウ 直接的な風汰の物言いに、いかにも社会を知らない中学生らしさを感じてほほえましく思ったから。

エ 自分にはできないような風汰の発言が面白く、こらえきれずふき出してしまったから。

問四

——部④「みんな大好きなんだ、お母さんのことが」とありますが、それが分かる連續した三文を本文中からぬき出し、始めの七字を答えなさい。

問五

——部⑤「どくんと心臓が鳴った」とありますが、このときの心情を表す語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 興奮こうふん
イ 期待きたい
ウ 恐怖きょうふ
エ 緊張きんちょう

問六

——部⑥「面倒なことばかりするんです」とありますが、この場面での「面倒なこと」とはどういうことですか。具体的に答えなさい。

——部⑦「お母さん。しおん君はいい子です。すごくいい子です。大丈夫ですよ」とありますが、このときの「林田先生」の思いとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア ささいなことに對して怒りが收まらない母親の気持ちを、何としてでも落ち着けたいと考えている。
イ 周囲の保護者の目もあるので、母親に怒おこつて指導する必要がないことを理解してほしいと考えている。
ウ 激しく怒る母親をなだめることで、しおん君が動搖どうようすることを何としても避けたいと考えている。
エ しおん君の行動は特別悪いものではなく、怒る必要はないことを母親に理解してほしいと考えている。

問八

——部⑧「こんなの、ダメだ」とありますか。何が「ダメ」なのでしょうか。その指示内容を説明しなさい。

——部⑨「そのうそは、誰かがちゃんと見つけてあげなきゃいけない」とありますが、「うそ」とはどういうことですか。分かりやすく説明しなさい。

問九

三、次の一部のカタカナを漢字に改めなさい。

- 1 新たな問題がハセイした。
- 2 マイキョにいとまがない。
- 3 イチジルしい成長をとげる。
- 4 今年はコクモツが豊作だ。
- 5 大きなキボのイベントを実施する。

四、次の（）内の状況にふさわしい言葉として、最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 〈店員が、店を出ようとする客に向かって言うとき〉

ア ご来店ありがとうございました。またのご利用をお待ちいただいております。
イ ご来店ありがとうございました。またのご利用をお待ちなさっております。
ウ ご来店ありがとうございました。またのご利用をお待ちしております。
エ ご来店ありがとうございました。またのご利用をお待ちになつております。

B 〈先生に対する日頃の感謝を述べるとき〉

ア いつも私たちにご丁寧に指導いたし、心から感謝しております。
イ いつも私たちにご丁寧に指導いたし、心から感謝しています。
ウ いつも私たちに丁寧にご指導くださり、心から感謝なさいます。
エ いつも私たちに丁寧にご指導くださり、心から感謝申し上げます。

五、（ ）の中のいじめを例にならって、□にあつよく形をかえて答えなさい。

例 川を□で渡った。（泳ぐ） → 答え「泳い」

- 1 友達を家に□う。（呼ぶ）
- 2 長時間テレビを□てはいけない。（見る）
- 3 いますぐ家を□ば間に合うだろう。（出る）
- 4 仲間から勉強法について□れる。（相談する）

六、次の①～⑤の熟語の説明として、最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 市営 ② 納税 ③ 往復 ④ 楽勝 ⑤ 改革

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| ア 同じような意味の漢字を組み合わせたもの。（例 身体） | イ 反対または対になる意味の漢字を組み合わせたもの。（例 開閉） |
| ウ 上の字が下の字を修飾しているもの。（例 和食） | エ 下の字が上の字の目的語になっているもの。（例 投球） |
| オ 主語と述語の関係にあるもの。（例 頭痛） | |

〔以下空白〕

解
答
用
紙
(一)

受験番号	
総 点	
評 点	

解 答 用 紙
(二)

六	五	四	三	問九	問八	問七	問六	問四	問三
① <input type="text"/>	I <input type="text"/>	A <input type="text"/>	5 <input type="text"/>	I <input type="text"/>	<input type="text"/>				
② <input type="text"/>		B <input type="text"/>		2 <input type="text"/>					
③ <input type="text"/>	2 <input type="text"/>			3 <input type="text"/>					
④ <input type="text"/>	3 <input type="text"/>			4 <input type="text"/>					
⑤ <input type="text"/>	4 <input type="text"/>								

問五

受験番号	
評点	